



2019年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 佐渡汽船株式会社
 コード番号 9176 URL <https://www.sadokisen.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾崎 弘明
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 土屋 亨 TEL 025-245-2311
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第3四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第3四半期	8,850	0.2	57	40.9	△24	—	△67	—
2018年12月期第3四半期	8,829	3.2	41	—	△49	—	△120	—

(注) 包括利益 2019年12月期第3四半期 △58百万円 (—%) 2018年12月期第3四半期 △116百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第3四半期	△4.72	—
2018年12月期第3四半期	△8.45	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第3四半期	15,123	2,394	13.0
2018年12月期	15,482	2,468	13.1

(参考) 自己資本 2019年12月期第3四半期 1,969百万円 2018年12月期 2,030百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2019年12月期	—	—	—	—	—
2019年12月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2019年12月期の配当につきましては、現段階では未定とさせていただきます。

3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,545	△3.3	△72	—	△194	—	△175	—	△12.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期3Q	14,292,250株	2018年12月期	14,275,450株
② 期末自己株式数	2019年12月期3Q	48,199株	2018年12月期	48,149株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期3Q	14,235,666株	2018年12月期3Q	14,207,801株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページをご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
(第3四半期連結累計期間)	6
四半期連結包括利益計算書	
(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(追加情報)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、地震、台風といった自然災害や猛暑等による景気への影響、また、米中の貿易摩擦や英国のEU離脱問題による世界経済への不安の高まり等により、先行きは不透明な状況で推移しました。

こうした状況の中、当社では3月9日に発生したジェットフォイル「ぎんが」の海中漂流物との接触事故を受け安全運航の徹底とともに、ジェットフォイルの安全対策の強化として①減速運航区間の拡大、②運航中の見張り強化、③水中スピーカーの改善、④シートベルトの改良、⑤鯨類情報の共有と定期的な検討、⑥座席の改良（座面のクッション材をより衝撃吸収力の高い素材に交換、折畳み式テーブルの撤去、新たな緩衝パッドの設置）、⑦客室内に「緊急停止」発光掲示板の設置といった措置をとっております。また、この事故により負傷されたお客様の補償等について誠心誠意、対応を行っております。なお、負傷されたお客様への補償については長期の時間を有することから、現時点では事業への影響について合理的に見積もることは引き続き困難な状況であります。

輸送実績は、主要三部門のうち貨物は米等の輸送量減少に伴い減少となりましたが、旅客、航送は若干の減少であるもののほぼ前年同期並みとなりました。売上高は、主要三部門の輸送量が減少したものの、当社グループにとって最盛期となる7月～9月において、ジェットフォイル利用が前年同期を上回った（前年同期比2.5%増）こと、2019年1月～3月は燃料油価格変動調整金2ゾーンを適用（前年同期は1ゾーンを適用）したことにより、僅かながら前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,850,232千円（前年同期比0.2%増）、営業利益は57,918千円（前年同期比40.9%増）、経常損失は24,777千円（前年同期は49,656千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は67,217千円（前年同期は120,041千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、以下の通りであります。なお、当社グループの売上高は事業の性質上、第3四半期に著しく増加する傾向にあり季節的変動が顕著であります。

なお、前連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較においては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

①海運

当第3四半期連結累計期間の旅客輸送人員は1,167,336人（前年同期比0.0%減）、自動車航送台数は乗用車換算で172,865台（前年同期比0.0%減）、貨物輸送トン数は104,640トン（前年同期比5.9%減）となりました。

売上高は、主要3部門のうち旅客、航送が若干の減少ではあるものの、ほぼ前年同期並みの輸送量となったこと、また、2019年1月～3月は燃料油価格変動調整金2ゾーンを適用（前年同期は1ゾーンを適用）したことにより前年同期を僅かながら上回りました。費用面においては、原油価格の動向により船舶燃料費が前年同期と比べ減少していることから、セグメント損失は前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,044,615千円（前年同期比0.1%増）、セグメント損失（営業損失）は25,346千円（前年同期は54,288千円のセグメント損失（営業損失））となりました。

②一般貨物自動車運送

運送収入はほぼ前年同期並みとなりましたが、整備収入やリース収入が前年同期と比較して減少したことから、売上高は前年同期を下回りました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は1,142,952千円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益（営業利益）は4,153千円（前年同期比6.5%減）となりました。

③売店・飲食

前年の春に拡張した両津港ターミナル内売店の売上増加が寄与したこと、また、カーフェリー船内の売店、食堂の売上が増加したことから、売上高は前年同期を上回りました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は876,238千円（前年同期比3.5%増）、セグメント利益（営業利益）は29,894千円（前年同期比49.3%増）となりました。

④観光

本年5月1日を以って寺泊～赤泊航路が廃止となったため、同航路を利用の旅行商品の設定が本年度は無いこと、また、団体旅行の取扱い減少により売上高、セグメント利益ともに前年を下回りました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は581,485千円(前年同期比3.1%減)、セグメント利益(営業利益)は7,676千円(前年同期比63.4%減)となりました。

⑤不動産賃貸

費用面においては、前年及び本年の設備投資により減価償却費が増加したことから、セグメント利益は前年同期を下回りました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は80,941千円(前年同期比3.0%減)、セグメント利益(営業利益)は12,152千円(前年同期比50.7%減)となりました。

⑥その他

建物サービス業における修繕工事の受注増加により、売上高、セグメント利益(営業利益)とも前年同期を上回りました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は124,001千円(前年同期比24.2%増)、セグメント利益(営業利益)は9,553千円(前年同期比77.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ359,469千円減少し15,123,046千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ398,134千円減少し3,497,115千円となりました。これは、現金及び預金が212,224千円、受取手形及び売掛金が222,501千円それぞれ減少したことが主な要因であります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ45,335千円増加し11,606,137千円となりました。これは、償却の進行により有形固定資産が35,113千円減少したものの、無形固定資産が29,449千円、投資その他の資産が50,999千円それぞれ増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ285,583千円減少し12,728,710千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ292,317千円減少し3,768,439千円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が160,719千円、賞与引当金が143,052千円それぞれ増加したものの、支払手形及び買掛金が48,040千円、短期借入金が325,000千円、その他が191,080千円それぞれ減少したことが主な要因であります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ6,734千円増加し8,960,271千円となりました。これは、社債が345,040千円減少したものの、長期借入金が291,133千円、退職給付に係る負債が78,452千円それぞれ増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ73,886千円減少し2,394,336千円となりました。これは、67,217千円の親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年2月15日に公表いたしました業績予想を、2019年11月12日に修正しております。修正理由につきましては、2019年11月12日付「2019年12月期通期(連結・個別)の業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,875,337	1,663,113
受取手形及び売掛金	1,048,430	825,929
たな卸資産	815,688	809,379
その他	161,499	203,972
貸倒引当金	△5,705	△5,278
流動資産合計	3,895,249	3,497,115
固定資産		
有形固定資産		
船舶(純額)	5,301,358	5,120,878
建物(純額)	2,634,285	2,970,245
土地	1,738,812	1,738,812
建設仮勘定	295,059	30
その他(純額)	784,986	889,422
有形固定資産合計	10,754,500	10,719,387
無形固定資産		
その他	246,854	276,303
無形固定資産合計	246,854	276,303
投資その他の資産		
投資有価証券	162,539	158,850
長期前払費用	300,683	319,907
その他	98,219	133,683
貸倒引当金	△1,993	△1,993
投資その他の資産合計	559,448	610,447
固定資産合計	11,560,802	11,606,137
繰延資産		
社債発行費	26,464	19,794
繰延資産合計	26,464	19,794
資産合計	15,482,515	15,123,046

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	475,296	427,256
短期借入金	449,000	124,000
1年内償還予定の社債	410,040	365,040
1年内返済予定の長期借入金	1,835,628	1,996,347
未払法人税等	58,948	71,980
賞与引当金	48,908	191,960
その他	782,936	591,856
流動負債合計	4,060,756	3,768,439
固定負債		
社債	989,060	644,020
長期借入金	6,709,453	7,000,586
役員退職慰労引当金	65,606	60,044
退職給付に係る負債	864,283	942,735
特別修繕引当金	192,208	187,923
資産除去債務	27,393	27,806
その他	105,534	97,157
固定負債合計	8,953,537	8,960,271
負債合計	13,014,293	12,728,710
純資産の部		
株主資本		
資本金	843,135	845,265
資本剰余金	652,192	658,906
利益剰余金	547,825	480,608
自己株式	△30,577	△30,589
株主資本合計	2,012,575	1,954,190
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,065	15,618
その他の包括利益累計額合計	18,065	15,618
新株予約権	25,411	23,383
非支配株主持分	412,171	401,145
純資産合計	2,468,222	2,394,336
負債純資産合計	15,482,515	15,123,046

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
売上高	8,829,478	8,850,232
売上原価	8,081,277	8,072,204
売上総利益	748,201	778,028
販売費及び一般管理費	707,097	720,110
営業利益	41,104	57,918
営業外収益		
固定資産賃貸料	59,261	60,095
受取利息	108	72
受取配当金	5,129	4,463
その他	28,975	32,369
営業外収益合計	93,473	96,999
営業外費用		
支払利息	130,033	125,541
固定資産賃貸費用	31,818	30,088
その他	22,382	24,065
営業外費用合計	184,233	179,694
経常損失(△)	△49,656	△24,777
特別利益		
固定資産売却益	5,991	30,517
その他	89	—
特別利益合計	6,080	30,517
特別損失		
固定資産売却損	768	987
固定資産除却損	713	3,821
特別損失合計	1,481	4,808
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△45,057	932
法人税、住民税及び事業税	85,463	86,750
法人税等調整額	△15,135	△29,828
法人税等合計	70,328	56,922
四半期純損失(△)	△115,385	△55,990
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,656	11,227
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△120,041	△67,217

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△115,385	△55,990
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,379	△2,748
その他の包括利益合計	△1,379	△2,748
四半期包括利益	△116,764	△58,738
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△121,500	△69,664
非支配株主に係る四半期包括利益	4,736	10,926

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	海運	一般貨物 自動車運送	売店・飲食	観光	不動産賃貸	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,040,909	1,158,800	846,470	599,999	83,431	8,729,609	99,869	8,829,478
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,611	263,101	30,537	316,999	10,921	623,169	138,446	761,615
計	6,042,520	1,421,901	877,007	916,998	94,352	9,352,778	238,315	9,591,093
セグメント利益又は損失 (△)	△54,288	4,440	20,027	20,971	24,669	15,819	5,377	21,196

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建物サービス事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	15,819
「その他」の区分の利益	5,377
セグメント間取引消去	19,908
四半期連結損益計算書の営業利益	41,104

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	海運	一般貨物 自動車運送	売店・飲食	観光	不動産賃貸	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,044,615	1,142,952	876,238	581,485	80,941	8,726,231	124,001	8,850,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,852	255,497	30,809	291,521	11,280	590,959	132,012	722,971
計	6,046,467	1,398,449	907,047	873,006	92,221	9,317,190	256,013	9,573,203
セグメント利益又は損失 (△)	△25,346	4,153	29,894	7,676	12,152	28,529	9,553	38,082

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建物サービス事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	28,529
「その他」の区分の利益	9,553
セグメント間取引消去	19,836
四半期連結損益計算書の営業利益	57,918

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、「その他」に含まれていた「不動産賃貸」について量的重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。